

from the world
世界の国から

エチオピア連邦民主共和国

Federal Democratic Republic of Ethiopia



アクリル・ウォルデマリヤム・ハブテ氏

エチオピア投資庁 情報・投資促進局長

Mr. Aklilu Woldemariam Habte
Director, Information and
Investment Promotion Directorate,
Ethiopian Investment Agency (EIA)

首都 アディスアベバ
面積 109.7万平方キロメートル
(日本の約3倍)
人口 約9,173万人(2013年:世銀)
政体 連邦共和制
元首 ムラトウ・テシヨメ・ウィルトウ 大統領
言語 アムハラ語、英語
通貨 ブル(BIRR)

グッド・ガバナンスと高い経済成長を誇る国

アフリカで最も安定した国

エチオピアはアフリカ北東部に位置しており、国土の大部分がエチオピア高原を中心とする高地にあります。首都アディスアベバの年平均気温は10~23°Cと過ごしやすく、その他のほとんどの地域も穏やかで生活しやすい気候です。政治的にも安定しており、他のアフリカ諸国に比べて犯罪率は低く、汚職についても厳しく統制されています。また、2004年以降のGDP成長率は年平均11%と、近年急速な経済成長を遂げています。

今回は初めての来日で、17日間の滞在中、皮革製品、エネルギー関係、農産品加工関係などの16の企業及び関連機関と面談し、香川、大阪、愛知で講演を行いました。多くの日本企業との面談を通して、日本の文化や社会生活はエチオピアにも通じる面があるという印象を受けました。ホスピタリティの高さ、労働者の勤勉さ、家庭的な雰囲気、職場環境などは、エチオピアと共通であると感じます。



アディスアベバの街並み
(写真提供:菅沼佐和子)

新規市場・製造拠点としての可能性

エチオピアは人口が多く、アフリカでも1、2を争う潜在的国内市場があります。また、19カ国が加盟し、約4億の人口を有する東南部アフリカ市場共同体(COMESA)の一員であり、これら加盟国市場へのアクセスに有利です。地理的に中東に近いことも潜在的な市場機会となっています。

政府の打ち出した国家計画(「成長・経済構造改革計画」2010~2015年)では、積極的に外国直接投資を受け入れる政策を取っています。ワンストップ・ショップ・サービスを設けて投資に関する各種手続きを一元化したり、投資法の改正を進めるなど、より投資しやすい環境が整いつつあります。また、外資を誘致するという意味で、わが国が比較優位性を持つ「製造業」と「農業」を国の重要セクターと位置付け、現地のビジネス環境を整備し、成果を上げています。特に、良質な綿花が栽培されることから、これを利用した繊維業には大きな可能性があります。また、アフリカ随一の家畜数を誇り、皮革加工業にも期待が持てます。その他、化学製品、医療品、鉄鋼業、農産品加工業の分野にも重点を置いています。

日本企業による投資を歓迎

40年ほど前には、現地に日本の繊維工場がありましたが、現在、日本とエチオピアの関係はODAが中心で、日本企業の参入はほとんどありません。しかし今回の来日で、いくつかの企業が本格的にエチオピアに進出しようとしていることが分かりました。例えば、横浜にある革製品の会社が、エチオピアの羊皮に注目し、進出に向けて実際に動いています。これを契機として、他の分野の日本企業もエチオピアへの投資を検討していくことを期待しています。

日本の企業は、長いスパンで計画を立て、小さく始めて着実に大きくしていくビジネススタイルであると理解しており、これは他国の投資家と異なる点だと思えます。今回の来日で、日本の企業が育んできた品質管理・生産性向上のノウハウはエチオピアの発展に直結するものだと期待を新たにしました。

エチオピア人はとてもフレンドリーで、英語が教育言語となっているなど、外資を受け入れる素地が備わっています。さらに、豊富で低廉な労働力があります。日本企業もこの貴重なビジネスチャンスを見逃すことなく、積極的にエチオピアに投資して欲しいと思います。

ゴンダール ファシリデス王の城(写真提供:菅沼佐和子)

